

## 学生教育（平成 25 年度）

長崎大学医学部の臨床教育は4年次より開始され、其々の得意分野に関する総論・各論講義を大学病院スタッフだけでなく関連病院の先生方にもご教示いただいている。

5年生では4年前からポリクリ開始前にPBL（Problem-Based Learning：問題基盤型学習）が始まった。PBLは8人程度のグループに対して教員から症例提示が行われ、学生が主体となって自己学習を行い知識を深めるという学習形式である。一昨年度からは新たにTBL

（Team-Based Learning：チーム基盤型学習）が開始された。TBLは100人程度のクラスに対して行われる。事前にテスト形式の問題が与えられ、個人とチームの双方から解決していくプロセスを通して学習を深める「能動的学習」であり、PBLの利点を備えながらも、教員配置が少なく済むことに加え、学習者個人への適度なプレッシャーを与えることが可能とされており、PBLの弱点を克服できる新たな学習方略として期待されている。一昨年度に続き、本年度を当科から柴田と石居が担当する。

そして6月から5年生のポリクリ実習が始まる。ここ数年の消化器内科のポリクリ体系としては、2週間の実習期間を通じて病棟実習で指導医とともに患者に関わるほか、シミュレーターを用いての腹部エコーや消化管内視鏡の技術体験実習、消化器化学療法に関する講義などが概ね定着してきた。また、カンファレンスや学会発表に必要なプレゼンテーションについての指導も行っている。

6年生は、4月から高次臨床実習（クリニカルクラークシップ：クリクラ）が始まり、4週間という実習期間を通じて5年次よりさらに深く病棟実習、手技実習を経験している。また、1か月の期間中に1週間程度、長崎みなとメディカルセンター市民病院、日赤長崎原爆病院、健保諫早総合病院、春回会井上病院、山根内科胃腸科、谷川放射線科胃腸科医院の先生やスタッフの方々にご協力をいただき学外で消化器内科診療を経験している。

依然としてポリクリ、クリクラ後のアンケート結果からは不十分な点もあり、今後もカリキュラムや学生との関わり方については改善に努めていく。

長崎大学消化器内科が医学生にとって魅力的な診療科であることを示すには充実した学生教育が不可欠である。学生、研修医、医員と教員が一体となって学生教育に関わる体制を強化し将来の消化器内科医育成に努めていきたい。



2014年5月

谷川放射線科胃腸科の谷川健先生  
との往診風景